



シンガポール日本人学校について

著者	越井 郁朗
引用	人間科学論集. 1988, 20, p.25-41
URL	http://doi.org/10.24729/00004759

シンガポール日本人学校について

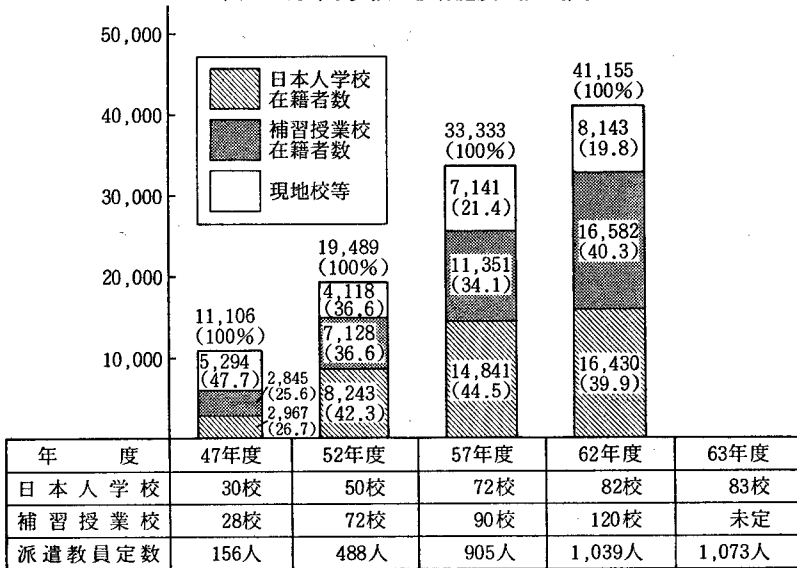
越 井 郁 朗

はじめに

今日わが国の国際交流は、経済・政治・文化などさまざまな方面で活発に行われているが、それに併行して海外に勤務する長期在留者も増加している。外務省の発表によれば、昭和62年10月1日現在の長期滞在者並びに永住権を取得している海外在留邦人の数は、51万8,318人に達している。そのうちには、海外勤務の父母に同伴して滞在する義務教育段階の児童・生徒4万人余を含んでいる。(昭和62年5月1日現在で4万1,155人に上っている。)これら児童・生徒を対象に、国際交流の現場にあって直接教育を担当しているのが、海外の日本人学校である。現在世界各地57カ国にわたり83校の日本人学校が設置されている。この外に、現地社会の学校やインターナショナル・スクールに通学している児童・生徒を対象に、週末などに日本語による一部教科の補習教育を行う補習授業校が、120校設置されている。(図1参照)日本人学校、補習授業校のいずれにも、文部省を通じて教員が派遣され、設備、備品などの援助が行われている。また、日本国内と同様、義務教育の教科書が無償配布されている。

国際化時代の今日、その渦中において直接国際社会に向けての教育を実践し担当しているのは、これらの在外教育施設、特に日本人学校である。それは、教育並びに文化の面から国際理解に重要な役割を果たしている。即ち、現地社会との交流——もの・人・知識と情報の円滑な伝達と受容、現地社会への適応と

図1 海外子女数と教育施設の数の推移



(注) 海外子女数は、各年5月1日現在の義務教育相当年齢の者の数である。

出典：「文部時報」63年7月号

理解——異文化社会への共感的理解と異文化交流に伴うカルチャー・ショックの除去や緩和、また、帰国後の日本社会と教育への適応——国内の教育との連続性と帰国子女の受け入れと適応といった問題に直接関係している。

現在83校を数える海外の日本人学校の中で、シンガポール日本人学校は最大規模の学校で制度的にも整備され、日本人学校の典型例を成している。さらに、シンガポール社会自体が、中国系、マレー系、インド系などの諸民族から構成された有数の多民族国家であり、この面からもシンガポール日本人学校は、国際理解・教育と文化の国際化を考える上での典型的な事例となりうるであろう。このような問題意識の下に、今回（昭和63年8月）大阪教育大学社会学研究会の海外学術調査団に参加して実施したシンガポール日本人学校の現地調査の概要を、以下記すことにする。

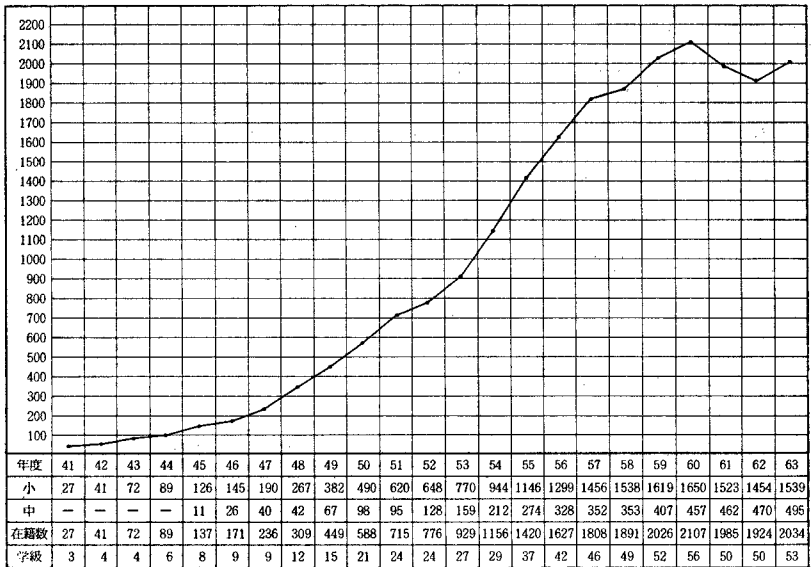
1. 学校の沿革と現状

現在、シンガポール日本人学校は、小学部と中学部から成るが、それぞれ別々の校舎・校地に分離して運営されている。いずれも都心の喧騒を離れた緑豊

表1 在籍児童生徒数（昭和63年5月1日現在）

学年 性別	小学部							中学部				合計
	1	2	3	4	5	6	計	1	2	3	計	
男	148	143	150	147	113	95	796	100	78	72	250	1,046
女	113	135	116	140	120	119	743	91	90	64	245	988
計	261	278	266	287	233	214	1,539	191	168	136	495	2,034
学年編成	7	7	7	7	6	6	40	5	4	4	13	53

図2 児童生徒数の推移



出典：シンガポール日本人学校要覧（昭和63年度）

かで閑静な郊外に位置し、ゆったりとしたキャンパスを持っている。グリーン・アンド・クリーンをモットーとするガーデン・シティ、シンガポールにふさわしい手入の行き届いた学校である。

学校の創設は、1966年(昭和41年)、小・中学部併設校として教職員3名、児童生徒27名の零細規模の学校で発足した。ところがその後、日本経済の拡大と国際化、企業の海外進出と国際自由貿易港シンガポールの吸引力の相乗作用によって、シンガポール駐在員が増加し、それに併行して同伴する児童生徒の数も増大の一途をたどり、学校の規模も拡大した。表1と図2に示す如く、1970年代後半から飛躍的に児童生徒数が増加している。1979年には1,000人を、その5年後の1984年には2,000人の大台を越えるまでになった。1988年5月1日現在、教職員121名(内訳は、政府派遣教員が小学部46名、中学部20名、大半が英会話担当の現地採用教員が、小学部20名、中学部5名、また現地採用者を主体とする事務局職員が小・中学部併せて30名)、児童生徒数2,034名(小学部児童1,539名、中学部生徒495名)となっている。かくて83校を数える海外の日本人学校の中で、最大規模の学校となっている。

この間、規模の拡大に伴い、1969年、1971年、1976年と目まぐるしく校舎・校地を移転し、現在の小学部の校舎に到っている。しかし、1984年にはこれも手狭になり、中学部が新設の校舎に分離移転して今日の形になっている。また、1986年からは、小・中学の両部にそれぞれ校長が就任して2人校長制が実現し、学校の管理運営面での拡充整備が行われた。

2. 国際校としての特色

この学校は、シンガポール日本人会が経営するシンガポール政府認可の全日制私立学校であるが、その教育内容や運営の仕組は、日本国内の公立小・中学校とあまり変らない。

即ち、日本国内の教育制度に従い、日本政府が派遣する校長以下の日本人教

員（任期3年）によって、日本から海外子女教育振興財団を經由して送られた文部省検定の教科書に基づいて、日本語で授業が行われている。学年の始まりも、地元シンガポールの学校が1月を新学年開始としているのに対して、日本に合せて4月になっている。

国際校としての特色は、現地採用教員を中心とする語学（英語）教育の重視と、現地校の児童生徒との交換行事、現地の社会・歴史・文化・自然を取り入れた教材面での工夫などに現われている。

小学部では英語科を設けて週1～2時間、英会話中心の英語の授業を実施して語学教育に力を入れている。中学部では国際科を置き、英語会話以外にも現地の風俗・伝統文化についての知識を授け、国際理解を推進している。

また、小・中学部とも、現地校との相互理解のために、クラブ活動やスポーツの交換を通じて、いくつかの交歓会を開催している。ホーム・ステイの交換も実施され、国際理解が計られている。

当然ながら、日本の教科書を使っているとしても、気候、風土、価値観などが大きく異なるので、社会科・理科などでは現地事情を取り入れた副教材を作成して現地の民族、社会、歴史、文化、自然や、日本との交流の実態などを題材にして国際理解に意を用いている。教職員への現地スタッフの採用も、彼らと共に吹き込む現地の風が国際理解、交流の一環として成果を上げているようである

この児童生徒は環境に恵まれて、非行問題もなく、学力面では極めて優秀で、日本国内でも上位に位置づけられよう。中学部の卒業生は日本の有名進学校へも多数進学している。各都道府県教委推薦の優秀な教員、職場で選ばれて派遣された父兄、そして勉学の邪魔になる刺激からの遮断などの事情が、学力に好影響を与えていよう。

高校はないので、ほとんどの生徒は帰国し、寮に入ったり、又は別居生活を余儀なくされている。一部、現地のアメリカン・スクールなどに通う人もいるが、父母の間では現地に日本の高校を誘致設立したいという要望も強く、現

在、日本から私立高校が進出する計画も進められているようである。

3. 日常生活と現地への適応

シンガポールは、物資が豊かで、高度に産業が発達し、道路交通網も整備され、ビルが林立する文明化された都市国家であるから、気候、植生を除けば、日本の都市とあまり異和感がない。その上、日本からいくつかのデパートやスーパーが進出しているので、そこでは日本の商品を日本語で購入することも可能である。勢い日本人同志の社交の場となる。かくて、児童生徒の生活時間・生活空間から見る時、異国体験はあるけれども、現状では国際理解・国際化教育も必ずしも有効に機能しているとはいえないように思える。

子供達にとって、使用する言葉は、家庭でも、学校でも、友人との付き合いでもすべて日本語で何不自由なく暮せ、日本の生活の延長のようである。

便利さと安全面を配慮して、登下校はすべて集団でのバス通学である。放課後、学校に残ってクラブ活動をしたり、遊んだりという余裕がほとんどない。普段の生活は、学校から帰宅して昼寝、夕方頃から室内で遊ぶか、近くの日本人の友人と団地の中庭で遊ぶ程度で、ほとんど外出なしで過ごすことが多い。

住居は安全性への配慮もあり、大多数の日本人は、管理人が24時間ガードする中高層住宅団地に住む。ここで暮すには、少なくとも3種のカギが必要とされる。即ち、駐車場のカギ、建物に入るカギ、自宅のカギの3種である。従って、中高層住宅に囲まれた庭は、安全な遊びといこいの場であり、プール、その他の遊具も備えられ、管理人がいて、安心して子供を出しておける空間でもある。このように日本国内の生活との著しい違いは、通学や住居、遊びなどの日常生活での安全面への厳しい徹底した配慮である。そして、たまの外出も車でなされることが多いためか、足が弱くなり、後のアンケートにも示されているように、校庭で整列している間も立っているのが苦痛だという子供が珍しくなくらいに体力が劣っているという。

4. 教育事情のアンケート調査

今夏の現地調査に先立ち、本年5月に日本人学校小学部の父母を対象に実施したアンケート調査の集計結果を付記する。記入者は小学部1年～6年まで各1クラスの父母で、全体で221名の回答が寄せられた。アンケートの結果は、興味ある内容を示しているが、その分析は別の機会に譲り、ここでは、生の数字のみを記すことにする。表の中の数字は実数を表わし、()内は%を表わしている。また、N.A.の記号は、回答なしを示している。

なお、調査票の作成・集計には、大阪教育大学社会学研究会の森泉敏彦・内藤孝夫・豊福陽一・土肥豊の各氏のご協力を得たことを付記しておく。

教育調査票と集計結果

小学校全体集計

(小・中) 学校 学年 組	児童・生徒氏名 ()	114・107 (男・女) 合計 221人
平均家族員数 家族構成 4.4人	平均兄弟姉妹数 2.4人 父・母・兄弟姉妹 () 人・その他 () 221・221 308 3	
(いっしょに住んでいる人に○をつけて下さい)	使用人 () 人 22	平均使用人数 0.1人

記入に際して

- * 上記の兄弟姉妹の()には、本人を除いた人数を記入して下さい。また、その他の()には、本人との続柄を記入して下さい。
- * 以下、質問は1～14まであります。
- * 質問には、各ご家庭の保護者の方に記入していただくようお願いします。
- * 次の質問について、該当する番号に○をつけ、()の中には数字または文字を記入して下さい。

(註) 家族構成欄の住み込みの使用人の数は平均0.1人と極めて少い値を示しているが、殆んど100%に近い家庭では、阿媽(アマ)と呼ばれるメイドをパートで雇用しているのが実情である。

Q1. シンガポールに何年住んでおられますか。

(1) 子ども

1. 1年未満	2. 1年～3年未満	3. 3年～5年未満	4. 5年以上(約 年)	N.A.
57	84	51	25	4
(25.8)	(38.1)	(23.1)	(11.3)	(1.8)

(2) 父

1. 1年未満	2. 1年～3年未満	3. 3年～5年未満	4. 5年以上(約 年)	N.A.
39	92	50	32	8
(17.6)	(41.7)	(22.6)	(14.5)	(3.6)

(3) 母

1. 1年未満	2. 1年～3年未満	3. 3年～5年未満	4. 5年以上(約 年)	N.A.
57	83	48	26	7
(25.8)	(37.5)	(21.7)	(11.8)	(3.2)

Q2. お子様は日本の学校に何年生のときまでいましたか。

1. 小学校 () 年生のときまで					2. なし	N.A.
1	2	3	4	5		
45	25	35	15	4	96	1
(20.4)	(11.3)	(15.8)	(6.8)	(1.8)	(43.4)	(0.5)

Q3. お子様はシンガポールで幼稚園・保育園などに通われたことがありますか。

1. 1年未満	2. 1年～2年未満	3. 2年以上	4. なし	N.A.
19	31	34	137	0
(8.6)	(14.0)	(15.4)	(62.0)	(0)

Q4. お子様は日本人学校に何年通っていますか。

1. 1年未満	2. 1年～3年未満	3. 3年～5年未満	4. 5年以上(約 年)	N.A.
83	94	35	9	0
(37.6)	(42.5)	(15.8)	(4.1)	(0)

Q5. シンガポール以外海外在住経験はありますか。

(1) 子ども	1. ある	2. ない	N.A.
	31	190	0
	(14.0)	(86.0)	(0)
(2) 父	1. ある	2. ない	N.A.
	57	160	4
	(25.8)	(72.4)	(1.8)
(3) 母	1. ある	2. ない	N.A.
	38	183	0
	(17.2)	(82.8)	(0)

Q6. 次の言語をどの程度話せますか。

(1) 子ども

- a. 日本語 1.よくできる 2.だいたいできる 3.あまりできない 4.全くできない N.A.
 165 54 2 0
 (74.7) (24.4) (0.9) (0) (0)
- b. 英語 1.よくできる 2.だいたいできる 3.あまりできない 4.全くできない N.A.
 5 34 152 29 1
 (2.3) (15.4) (68.7) (13.1) (0.5)
- c. 中国語 1.よくできる 2.だいたいできる 3.あまりできない 4.全くできない N.A.
 2 0 11 203 5
 (0.9) (0) (5.0) (91.8) (2.3)
- d. その他話せる言語があればあげて下さい (なし)

(2) 父

- a. 英語 1.よくできる 2.だいたいできる 3.あまりできない 4.全くできない N.A.
 92 109 20 0 0
 (41.6) (49.4) (9.0) (0) (0)
- b. 中国語 1.よくできる 2.だいたいできる 3.あまりできない 4.全くできない N.A.
 1 6 55 144 15
 (0.5) (2.7) (24.9) (65.1) (6.8)
- c. その他話せる言語があればあげて下さい (タイ語, マレー語, インドネシア語,
 フランス語, 広東語, スペイン語,
 ポルトガル語, ドイツ語, ベルジャ語,
 ロシア語, アラビア語)

(3) 母

- a. 英語 1.よくできる 2.だいたいできる 3.あまりできない 4.全くできない N.A.
 11 49 147 14 0
 (5.0) (22.2) (66.5) (6.3) (0)
- b. 中国語 1.よくできる 2.だいたいできる 3.あまりできない 4.全くできない N.A.
 2 2 9 196 12
 (0.9) (0.9) (4.1) (88.7) (5.4)
- c. その他話せる言語があればあげて下さい (タイ語, マレー語, 広東語, インドネシア語,
 ベルジャ語, 日本語, スペイン語,
 フランス語, ポルトガル語)

Q7. お子様の帰宅後の生活についてお尋ねします。あてはまるものを選んでいくつでも○をつけて下さい。

- (1) 遊ぶ相手は誰ですか。 1.兄弟姉妹 2.家の人 3.級友 4.近所の日本の子ども
 157 27 81 190
 (71.0) (12.2) (36.7) (86.0)
- 5.近所のシンガポールの子ども 6.独りで
 11 38
 (5.0) (17.2)
- (2) 外出について。 1.よくひとりで出る 2.家の人と一緒に出る
 38 164
 (17.2) (74.2)
- 3.あまり出ない 4.出ない N.A.
 42 3 2
 (19.0) (1.4) (0.9)

(3) 習いごとやクラブに参加していますか。

1. 学習塾	2. 英語	3. 中国語	4. ピアノ	5. 習字
35	122	1	93	4
(15.8)	(55.2)	(0.5)	(42.1)	(1.8)
6. 水泳	7. テニス	8. サッカー	9. 野球	
84	18	25	23	
(38.0)	(8.1)	(11.3)	(10.4)	
10. その他	(ソフトボール15, 珠算5, バイオリン4, バレエ4, 空手2, エレクトーン2, 剣道2, タップダンス1, 合気道1, 絵画1, テコンドー1, バスケットボール1, バレーボール1, フルーツ1, なわとび1)			
42				
(19.0)				
N. A.				
20				
(9.0)				

(4) シンガポールの子どものどの程度つきあっていますか。

1. よくつきあっている	2. あまりしない	3. まったくしない	N. A.
10	63	147	1
(4.5)	(28.5)	(66.5)	(0.5)

Q8. 日本にいるときと比べて、次の生活時間はどうなりましたか。

(1) 子どもの家庭学習の時間	1. ふえた	2. 同じ	3. へった	N. A.
	60	104	18	39
	(27.1)	(47.2)	(8.1)	(17.6)
(2) 子どものテレビを見る時間	1. ふえた	2. 同じ	3. へった	N. A.
	11	13	177	20
	(5.0)	(5.9)	(80.1)	(9.0)
(3) 子どもの帰宅後遊ぶ時間	1. ふえた	2. 同じ	3. へった	N. A.
	38	87	67	29
	(17.2)	(39.4)	(30.3)	(13.1)
(4) 子どもの外出する時間	1. ふえた	2. 同じ	3. へった	N. A.
	43	56	98	24
	(19.5)	(25.3)	(44.3)	(10.9)
(5) 子どもの家の人と話す時間	1. ふえた	2. 同じ	3. へった	N. A.
	78	110	12	21
	(35.3)	(49.8)	(5.4)	(9.5)
(6) 親として子どものしつけにかかわる時間	1. ふえた	2. 同じ	3. へった	N. A.
	57	123	20	21
	(25.8)	(55.7)	(9.0)	(9.5)
(7) 親子がふれあいをもつ時間	1. ふえた	2. 同じ	3. へった	N. A.
	92	83	27	19
	(41.6)	(37.6)	(12.2)	(8.6)
(8) 子どもに教える時間	1. ふえた	2. 同じ	3. へった	N. A.
	67	109	22	23
	(30.3)	(49.3)	(10.0)	(10.4)

Q9. シンガポールに長くいると、お子様の学力は日本にいる子どもと比べてどうなると
 思いますか。〔1.優れる 2.かわらない 3.劣ってくる 4.わからない〕から選んで
 数字を()の中に記入して下さい。

(1)国語()

1	2	3	4	N.A.
2	108	90	20	1
(0.9)	(48.9)	(40.7)	(9.0)	(0.5)

(2)社会()

1	2	3	4	N.A.
2	46	147	25	1
(0.9)	(20.8)	(66.5)	(11.3)	(0.5)

(3)算数・数学()

1	2	3	4	N.A.
4	183	12	19	3
(1.8)	(82.8)	(5.4)	(8.6)	(1.4)

(4)理科()

1	2	3	4	N.A.
0	70	123	27	1
(0)	(31.7)	(55.7)	(2.2)	(0.5)

(5)音楽()

1	2	3	4	N.A.
9	177	11	21	3
(4.1)	(80.0)	(5.0)	(9.5)	(1.4)

(6)図工・美術()

1	2	3	4	N.A.
5	158	25	30	3
(2.3)	(71.4)	(11.3)	(13.6)	(1.4)

(7)家庭・技術()

1	2	3	4	N.A.
2	140	26	45	8
(0.9)	(63.3)	(11.8)	(20.4)	(3.6)

(8)体育()

1	2	3	4	N.A.
26	84	85	22	4
(11.8)	(38.0)	(38.4)	(10.0)	(1.8)

(9)英語()

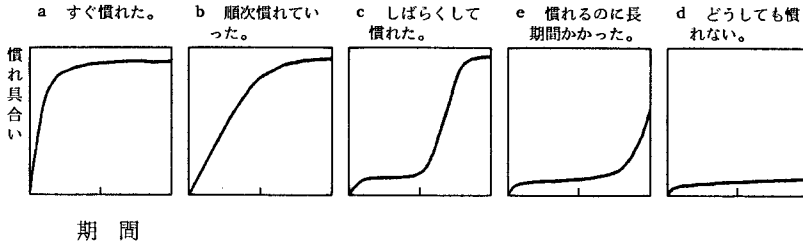
1	2	3	4	N.A.
198	7	1	12	3
(89.5)	(3.2)	(0.5)	(5.4)	(1.4)

Q10. あなたは日常の情報をどのようなものから得られていますか。

- | | | | | |
|---------------------------------------|--------|----------|---------|-------|
| (1) 日本の新聞・雑誌 | 1.よく見る | 2.あまり見ない | 3.全く見ない | N.A. |
| | 166 | 53 | 1 | 1 |
| | (75.0) | (24.0) | (0.5) | (0.5) |
| (2) シンガポールの新聞・雑誌 | 1.よく見る | 2.あまり見ない | 3.全く見ない | N.A. |
| | 63 | 113 | 43 | 2 |
| | (28.5) | (51.1) | (19.5) | (0.9) |
| (3) 日本のテレビ・ビデオ | 1.よく見る | 2.あまり見ない | 3.全く見ない | N.A. |
| | 78 | 116 | 26 | 1 |
| | (35.3) | (52.4) | (11.8) | (0.5) |
| (4) シンガポールのテレビ | 1.よく見る | 2.あまり見ない | 3.全く見ない | N.A. |
| | 56 | 146 | 18 | 1 |
| | (25.3) | (66.1) | (8.1) | (0.5) |
| (5) その他どのような方法で情報を得られていますか。あればお書き下さい。 | | | | |

(友人, 会話, 国際電話, 手紙, 口こみ, 日本人会,
 B B C ラジオ, 星日報, Times, 会社の情報, ク
 レジットカードの雑誌, 他)

Q11. 現地への適応のしかたには、様々なタイプがあります。あなたのご家族のシンガポールへの適応のしかたは、次のどのタイプに似ていますか。また、慣れるまでの期間はどれぐらいかかりましたか。該当する番号に○をつけ（ ）の中に年数を記入して下さい。



	1. a	2. b	3. c	4. d	5. e	N.A.
(1)子ども	98 (44.3)	78 (35.3)	30 (13.6)	7 (3.2)	0 (0)	8 (3.6)
(2)父	123 (55.6)	72 (32.6)	10 (4.5)	6 (2.7)	3 (1.4)	7 (3.2)
(3)母	69 (31.2)	104 (47.1)	31 (14.0)	8 (3.6)	4 (1.8)	5 (2.3)

Q12. お子様の将来にとって、シンガポールにきたことがどのような点でプラスになると思いますか。(いくつでも○をつけて下さい)

- | | | |
|------------------------------------|---|----------------------------|
| 1. 進学に有利になる
0
(0) | 2. 国際感覚が身につく
127
(57.5) | 3. 語学力がつく
113
(51.1) |
| 4. 日本がよいと思うようになる
69
(31.2) | 5. 日本を客観的に見られる
120
(54.3) | 6. のびのび育つ
144
(65.2) |
| 7. 体力がつく
37
(16.7) | 8. 人種差別意識がなくなる
101
(45.7) | 9. エリート意識が生まれる
0
(0) |
| 10. その他 (日本の国以外を知った。
7
(3.2) | 将来にならないとわからない、判断困難。
日本では出来ない体験・経験が出来る。
家族の結びつきが強くなる。
水泳が得意になる。他) | N.A.
3
(1.4) |

Q13. お子様の将来にとって、シンガポールにきたことがどのような点でマイナスになると思いますか。(いくつでも○をつけて下さい)

- | | | |
|--|-----------------------------|------------------------------|
| 1. 進学に不利になる
38
(17.2) | 2. 学力がつかない
15
(6.8) | 3. 日本語が下手になる
28
(12.7) |
| 4. 競争心がうすれる
69
(31.2) | 5. 金使いが荒くなる
25
(11.3) | 6. 体力が劣る
72
(32.6) |
| 7. 人種差別意識が生まれる
6
(2.7) | 8. 勤労意識がなくなる
20
(9.0) | 9. エリート意識が生まれる
1
(0.5) |
| 10. その他 (季節感がなくなる。日本的習慣・人情にうとくなる。 N.A.
16 友人関係, 現地病, 集中力がなくなる。 47
(7.2) 帰国後の友人関係, 精神面, 体力に不安。 (21.3)
欧米人を嫌うようになる。他) | | |

Q14. 海外生活を続けることについて、どう思われていますか。

- | | | | |
|--------|-------------------------------|---|--------------------|
| (1)子ども | 1. 早く日本へ帰国したい
72
(32.6) | 2. もう少し当地にいたい
123
(55.7) | |
| | 3. 当地にずっと住みたい
14
(6.3) | 4. その他 (時々日本に帰りたい。他)
8
(3.6) | N.A.
4
(1.8) |
| (2)父 | 1. 早く日本へ帰国したい
42
(19.0) | 2. もう少し当地にいたい
126
(57.0) | |
| | 3. 仕地にずっと住みたい
25
(11.3) | 4. その他 (会社まかせ, 他国へもいきたい, 時期をみて帰国, 他)
19
(8.6) | N.A.
9
(4.1) |
| (3)母 | 1. 早く日本へ帰国したい
57
(25.8) | 2. もう少し当地にいたい
129
(58.3) | |
| | 3. 当地にずっと住みたい
15
(6.8) | 4. その他 (少々たいくつしている, どちらでもよい, 他)
17
(7.7) | N.A.
3
(1.4) |

**最後にこのアンケートを記入した方に○をつけて下さい。

- | | | | |
|----------------------|-----------------------|-------------------------------|--------------------|
| 1. 父
23
(10.4) | 2. 母
196
(88.6) | 3. その他続柄 (児童本人)
1
(0.5) | N.A.
1
(0.5) |
|----------------------|-----------------------|-------------------------------|--------------------|

小学校全体集計

Q5 国別・年数別クロス集計表

(1) 子ども

国名	年数										計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10以上	
マレーシア	3		1		1		1				6
香 港	1	1	2	1							5
タイ・インドネシア	1		2								3
北米(加)		1	1	2	2(1)						6(1)
中 南 米	1				1						2
欧 州	1			1	1						3
アフリカ											
中 東		2									2
インド周辺											
韓国・台湾			1								1
太平洋諸国	1	3	1								5
計	8	7	8	4	5		1				33

(2) 父

国名	年数										計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10以上	
マレーシア	3	2	1	1		1	1				9
香 港	2		1	2			2				7
タイ・インドネシア	1	1	1	1							4
北米(加)	2	1	2	1	3(1)	1	1	1			12(1)
中 南 米	2		1	1	1						5
欧 州	2	1		1	2						6
アフリカ	1	2									3
中 東		8	3	1							12
インド周辺			2								2
韓国・台湾	2		1		1						4
太平洋諸国			1	4							5
計	15	15	13	12	7	2	4	1			69

(3) 母

年数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10以上	計
マレーシア	3		1		1		1		1		7
香港		1	1	2			1				5
タイ・インドネシア	1		2								3
北米(加)		1		2	3	1	1				8
中南米			1		2						3
欧州	1			2	1						4
アフリカ											
中東		4	1								5
インド周辺			1								1
韓国・台湾			1								1
太平洋諸国		1	4								5
計	5	7	12	6	7	1	3		1		42

The Japanese School in Singapore

Ikuo Koshii

Today many Japanese children are living abroad with their parents. As the educational institutions for them, there are 83 Japanese schools abroad (1988). The Japanese school in Singapore is the largest educational institution for children living abroad. It was built in 1966 with only 3 staffs and 27 pupils. As the overseas business growing, the number of the Japanese school pupils is increasing year by year. Now (1988) the school has 121 teachers, 30 clerical personnels and 2,034 pupils. This school is separated into the elementary and the junior high school departments. Its curriculum is conformed to the Japanese educational system with the authorized textbook by the Japanese Ministry of Education. Moreover, the pupils learn the customs, society and nature of Singapore, and have contacts with the pupils of the Singaporean schools. These educational activities deepen mutual understanding with foreign countries and promote cultural exchanges.